

① 評価に関する資料（課題1）

1 本研究の方向性について

本校をはじめ、県内多くの高校が、今年度は次のような評価方法を実践している。

- 知識・技能 …… 定期考査，小テスト等
- 思考・判断・表現 …… 定期考査，コメントシート等
- 主体的に学習に取り組む態度 …… レポート，作品，コメントシート等

一方で、授業中の活動やその成果を評価に盛り込むのは難しく、なかなか実践できていない。そこで、学習指導要領の主旨を踏まえ「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、授業中の活動やその成果を評価することができないか、研究した。

2 授業中の活動や成果から「思考・判断・表現」の評価を測る方法の研究

(1) 単元全体のまとめとして、予め与えられた音声のない映像教材に、自分たちでナレーションを加え、発表を行う活動を通して評価する。映像の編集も可とする。

- 公開授業2の歴史総合の授業で実践【学習指導案資料 p.9～12】した。
- あらかじめ評価シート【本資料 p.2】を生徒へ配布し、評価規準を示す。
- 自己評価に加え、他のグループの評価も行い、評価の参考にする。

(2) 各単元の授業の最初に「学習課題（＝単元全体を通した課題）」を提示し、その答えを定期考査で論述【評価問題資料 p.2～3（歴史総合の問題）】させる。

3 授業中の活動や成果から「主体的に学習に取り組む態度」の評価を測る方法の研究

(1) 単元の学習を終えて生徒が持った疑問を、評価の対象にする。

- 地理総合「世界の気候と人々の生活」の単元を終えるごとに、「新たに持った疑問」について述べさせ、そのコメントを分析することで、評価するためのルーブリックを作成【本資料 p.3】する。

(2) 国立教育政策研究所が出版している『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 地歴公民 (p.69)』を実際にやってみて、本校でうまくいくかどうか検証する。

- 公開授業2の地理総合の授業で実践【学習指導案資料 p.5～8】した。
- 実践を通しての生徒のコメントを分析することで、評価するためのルーブリックを作成【本資料 p.4】する。

歴史総合 評価シート（思考力・判断力・表現力）

思考・表現（グループ評価）

1. 各グループで作成した動画を視聴して以下の内容が説明できていればチェックしなさい。

- ①ロシアはヨーロッパからバルチック艦隊を日本に送った。
- ②日本は朝鮮半島に進出した。
- ③東郷平八郎が連合艦隊を指揮して、ロシアのバルチック艦隊と対馬沖で戦闘をした。
- ④日本はロシアに勝利して国際的に認められた。
- ⑤1905年にアメリカのポーツマスで講和会議が行われ、ポーツマス条約が結ばれた。
- ⑥ロシアが勢力範囲（植民地）を拡大するために中国東北部（満州）に進出した。南下政策でも可。
- ⑦植民地を求める西洋の国々が東アジアに進出した。
- ⑧与謝野晶子が反戦論を唱えた。
- ⑨ポーツマス条約により、朝鮮半島における日本の優越権などを決めた

判断（個人評価）

2. 上記の内容を3つのグループに分けなさい。

第1グループ	第2グループ	第3グループ
--------	--------	--------

表現（個人評価）

3. 各グループに分けた理由を述べなさい。

第1グループ 理由	第2グループ 理由	第3グループ 理由
--------------	--------------	--------------

思考・表現（個人評価）

4. 日清戦争と日露戦争の共通点と相違点を書き出ささい。

- ・ 共通点

- ・ 相違点

第（ ）班

Ⅰ 学年 （ ）組 （ ）番 氏名（ ）

地理総合 「主体的に学習に取り組む態度」評価例(1)

ア. 問い

これまでの「世界の気候と人々の生活」の単元の授業を通して、新たに生じた疑問は何ですか。また、その疑問に対する答えを探究した人は、そのことについても述べて下さい。

イ. ルーブリック

生徒の質問を分析した結果、本校では次のルーブリックが使えるのではないかと考えた。

評価	点数	ルーブリック
A	5	学んだことを踏まえ新たな疑問・課題を設定しており、その疑問・課題解決を図ることに取り組んでいる。
	3～4	学んだことを踏まえ新たな疑問・課題を設定している。
B		学んだことをなぞった疑問・課題を設定しており、その疑問・課題解決を図ることに取り組んでいる。
	2	学んだことをなぞった疑問・課題を設定している
C	1	学んだことを踏まえていない疑問・課題を設定している
	0	未記入

ウ. 生徒の解答例と、その評価の例

※今回は「これまでの「世界の気候と人々の生活」の単元の授業を通して、新たに生じた疑問は何ですか。」という問いだったため、疑問解決のための記述をしている生徒はいない。

【評価4の例】

- どのようにして熱帯の定義を最寒月平均気温18℃以上と設定したのだろうか。
- 砂砂漠よりも岩石砂漠や礫砂漠が広がっている理由はあるのだろうか。
- 暖流が流れることで気温が高くなる原理を知りたい。
- なぜ冷帯の針葉樹は純林になっている（種類が少ない）のか。

【評価2の例】

- 熱帯はなぜ暑いのか。(→低緯度が暑くなる理由は説明した)
- 乾燥帯に川はあるのか。(→外来河川やワジは説明した)
- 温帯だけなぜ4つもの気候区に分かれるのか。(→植生の違いが著しい説明をした)
- なぜ人は熱帯(冷帯)に住むのか。(→質問の表現を変えれば評価4になるかも)

【評価1の例】

- 熱帯の条件は何か。
- 冷帯の植生は何か。

エ. 「主体的に学習に取り組む態度の評価」に関する注意

- ルーブリックは、年度当初(単元の最初)に示す。
- 上記の「単元を通じた疑問」に対する評価は、どの単元でも活用できるので、目安として月1程度、実施していく。
- 学期ごとに評点を出す際は、上記ルーブリックによる評価だけでなく、レポート等も加味する。

ア. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 地歴公民 (p.69) 掲載の問いと解答例

問い：私たちの住む地域について防災上の課題だと思ったことは何だろうか。

○評価Bの解答例：X地区と同様に、私の住む地域でも、同じ標高で予想浸水深が違うのはなぜかと疑問に思った。地図だけでは分からない部分もありそうなので、ぜひ現地調査をしてみたい。

○評価Bの解答例：高齢化の進む私の町で、自分は避難できても、自力で避難できない人の安全をどう確保したらよいか、地域の一員としてこれから考えていきたい。

○評価Cの解答例：洪水やガケ崩れが起こりそうな所には、はじめから近寄らない。

イ. アの資料と同様の授業を行い、同様の問いを行った結果について

- 問いが「防災上の課題は何か」であるため、「△△していきたい」という答えまでに到ったものは少なかった。解答例のような記述を求めるなら、問いの中に、「その課題に対し、どうしていけばよいか」といった文言が必要である。
- 問いの「私たちの住む地域」によっては、防災上の問題点が多い地域と少ない地域があるので、解答しやすい生徒と、解答しづらい生徒がいた。しかし、防災上の問題点が少ない地域でも、しっかり考えて課題を見いだした生徒もいた。
- 上記資料では評価Aの解答例がないため、本校生徒の解答例から、どのような答えが評価Aになるか、検討した。

ウ. 上記の問いの改善

これまでの「自然環境と防災」の単元の授業を踏まえ、私たちの住む地域についての防災上の課題は何だと思いますか。また、その課題に対する答えを探究した人は、そのことについても述べて下さい。

エ. ウの問いの答えに対するルーブリック

評価	点数	ルーブリック
A	5	学んだことを踏まえ新たな課題を設定しており、その課題解決を図ることに取り組んでいる。
	4～3	学んだことを踏まえ新たな課題を設定している。
B		学んだことをなぞった課題を設定しており、その課題解決を図ることに取り組んでいる。
	2	学んだことをなぞった課題を設定している
C	1	学んだことを踏まえていない課題を設定している
	0	未記入

オ. 生徒の解答例と、その評価（点数が3～5の例）

- 避難場所は山の上の学校などが多いため、土砂崩れが同時に起こった場合では、避難するのが困難になる。（評価4：津波と土砂崩れの両方を結びつけた新たな課題を設定している）
- 避難山、避難タワーを作る街としての防災意識はできていると思うが、個人個人の意識はまだ不完全だと思う。（評価3：学んだことに対する課題解決の方向性を考えている）
- 避難山があり、高さは7.6メートルです。想定津波を考えるともっと高く作った方がいいと思いました。また雨風を凌ぐ建物が10人程度しか入れない大きさなので避難してきた人全員が入れるぐらいの大きさにした方がいいと思います。（評価5：実際に調べ、新たな課題とその解決法を考えている）
- 建物の老朽化が進んでいることや、コロナなどで地域ぐるみの避難訓練がなくなっていること。（評価3：「避難訓練を増やす」という解決策に対し、コロナ等の現状を踏まえた課題を設定している）
- 山間部に高齢者の多い集落もあるが、まんべんなく防災施設や設備を作ろうとするとコストがかかる。（評価4：学んだことに対する課題策に対し、問題点を指摘している）